



柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館
【問い合わせ】☎73・7777

水都やながわ information



日本を代表する三味線奏者とチェリストの共演をお見逃しなく

上妻宏光 宮田大 Duo Concert Tour - 月食 -

3月16日
販売開始



三味線奏者の上妻宏光（左）とチェリスト宮田大

6歳から津軽三味線を始め、数々の大会で優勝し国内外でその技術が高く評価されている上妻宏光。これまで参加した全てのコンクールで優勝するなど圧倒的な演奏で世界を舞台に活動を繰り広げるチェリスト宮田大。日本を代表する2人の演奏者が「月の満ち欠け」になぞらえてさまざまな楽曲カバーやオリジナル楽曲を柳川で披露します。絶好の機会をお見逃しなく。

- 日時 6月8日（土）午後2時開演（開場は45分前）
- 入場料（全席指定）4500円、未就学児は入場不可
- 無料託児（未就学児）5月17日（金）までに要予約
- 発売日 3月16日（土）午前10時から市民文化会館で販売開始

楽しく歌う合唱メンバーを募集♪

白秋生誕140年をみんなで歌おう

来年1月の北原白秋生誕140周年イベントでの発表を目標に練習する、合唱メンバーを募集します。白秋が愛した水郷「柳川」の地で、声を合わせ高らかに歌いませんか。歌が大好きな皆さんの参加を待っています。詳しくは市公式サイトで確認してください。

- 募集対象 小学1年生～中学3年生（4月1日現在）
- 練習日時 土曜（月に3回程度）、午後2時～5時
- 講師 橋本倫宏（指導、指揮）、野口優美（指導、ピアノ）、堤朱美（サポート）
- 参加費 無料



suito 定例イベント
詳しくは、同館の公式サイトで確認できます。

第3金曜 ロビーコンサート
●日時・料金・出演 3月15日（金）午後7時～（約60分）、無料、Jパーカーズ

第3木曜 リトミックひろば
●日時・料金・講師 3月21日（木）①午前10時～②午前11時～（各40分）、1組500円、CHIAKI



写真②明治20年代後半撮影の子ども
【出典：富安（保）文書】



写真①「早取写真師」池末民三郎（細工町）の写真台紙【出典：富安（保）文書】

幕末から明治初期に撮影された写真の多くは、湿板写真と呼ばれるものでした。湿板とは、専用の薬液を塗って硝酸銀溶液に浸したガラス板です。この湿板に撮影した画像を焼き付けます。湿板は乾くと使えないので、薬液でぬれているうちに撮影しなければなりません。しかも、画像を焼き付けるには早くても数十秒、湿板が大きければ数十分も必要で、撮られる人はその間じっとしていなければなりません。首や頭を固定する器具が使われることもあったほどでした。長い時間じっとしていることができない小さな子どもにとって、湿板による長時間の撮影は、とても耐えられないものでした。

明治10年代（1877～1886）になると、乾板と呼ばれるガラス板が輸入されはじめました。乾板は乾いた状態で使用でき、画像を焼き付ける時間も湿板に比べ大幅に短縮されました。明治16年、東京浅草の写真師江崎

親心と「早取写真」

市史編さん係 梅本 真央

礼二は、乾板を使って海軍の水雷発火実験とボート競争を撮影。湿板では考えられなかった速く動くものの撮影に成功しました。江崎は「早取写真師」として評判になりました。

当時、乾板の国内製造は試行錯誤の段階。輸入に頼っていた乾板は高価なものでした。それでも江崎が人気だったのは、乾板によって小さな子どもを撮影できたからです。

明治30年代には、柳川にも早取写真師が現れ、小さな子どもの写真が盛んに撮影されるようになりました。

写真①は、明治中期から後期にかけて細工町で営業していた写真館の台紙です。館主の池末民三郎が早取写真師を名乗っていました。

写真②は、明治20年代後半に野片写真館（細工町）で撮影された子どもの写真です。柳川に残された早取写真から、「子どもの幼い姿を残しておきたい」と願う当時の人々の親心を読み取ることができます。

市史抄片別巻 vol.87

「思ひ出」写真館

※表記は広報紙のルールで統一しています。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月の広報紙に、集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）